

保育所や幼稚園等と小学校との連携・接続について

－理解を深めていく授業展開についての考察－

佐々木 利子\*

On Cooperation and Articulation between the Preschools and Elementary Schools :  
Consideration of the lesson progress which can deepen students' understanding  
Toshiko Sasaki

要約

この研究ノートの目的は、「保育所や幼稚園等と小学校との連携・接続について、どのような授業展開をすることで、学生の理解をより深めていくことができるか」について研究授業を通して考察することである。

研究ノートでは、最初に、今回実施した研究授業の構成と各内容での学生の反応等について振り返ることから、学生の理解状況を捉えていくこととした。次に、研究授業を参観した教員からの意見をもとに、授業の進め方や各内容について考察を行った。

結果として、身近な視点から考えてみることや、具体的な説明や映像を取り入れること等、学生が理解しやすい授業内容を構成する必要性とその具体的方法がより明確になった。

Abstract :

The purpose of this research note is to consider the following question by reflecting on an open lecture which was conducted by the author: "What kind of lecture can deepen the students' understanding about the topic of cooperation and articulation between preschools and elementary schools?"

In this research note, firstly, the author reflected on the plan of the open lecture and the students' reactions to the contents of each lecture in order to indicate the students' level of understanding. Secondly, by reviewing the comments from the teachers who audited the lecture, the author considered the relevance of the process and the contents of the lecture.

As a result, the necessity of and the actual ways of planning the lecture contents, which appeared to be easily understood by the students, were revealed; for example, making students think about the matter from familiar problems, using a practical explanation, images, and so on.

キーワード：研究授業 保こ幼小の連携・接続 交流活動

Keywords : Open class Cooperation and articulation between preschools and elementary schools  
Exchange Activity

受理年月日：2019年7月26日 \*高松短期大学保育学科講師

## 1 はじめに

平成29年3月、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針(以下3要領等と表記)がそろって改訂(定)・告示された。今回の改訂(定)では、3要領等のさらなる整合性が図られるとともに、幼児教育と小学校以上の教育のつながりも明確に示された。これにより、保育所や幼稚園等と小学校の双方において、就学前・後の接続がより滑らかなものとなるよう、教育・保育の在り方を検討し、実践していくことが必須となった。

このため、保育者の養成段階において、保育所や幼稚園等と小学校との連携・接続について理解を深めておくことの必要性を感じており、筆者が勤務している保育学科においても、保育・教職実践演習の授業計画に位置付け取り組んでいるところである。今年度、筆者がこの授業を担当し、連携・接続の全体的な捉えと具体的内容の理解を目的として実施した。

なお、本学では授業における教育指導法の改善のために研究授業を実施しており、筆者が担当した今回の授業は研究授業として6名の教員に参観され、授業後には研究討議が実施された。

授業を通し、学生はこの内容について大筋では理解することができたと思われるが、その意義や目的の理解、具体的な取組みのイメージには個人差が見られた。このことから、「保育所や幼稚園等と小学校との連携・接続について、どのような授業展開をすることで、学生の理解をより深めていくことができるか」について研究授業を通して考察することを目的とし、この研究ノートにまとめた。研究ノートの構成としては、最初に授業内容とそれに対する学生の反応の振り返りを行い、その後に研究授業参観教員の意見に対する考察を行うものとする。

なお、研究授業としては2時間目のみの実施であるが、保育・教職実践演習の2コマを使つての授業と設定していたため、討議も2コマ分の内容について実施しており、この研究ノートでも全体を通しての振り返りとしている。

## 2 授業内容

研究授業は、平成31年1月10日(木)に、2年生対象の保育・教職実践演習第31・32講として実施した。(研究授業の指導案を資料1として添付した)

### 2.1 授業の進め方

保育現場では、新任者が年長クラスを担当することはほとんどない。先輩等の様子からそのことを把握している学生は、保・こ・幼・小の連携・交流について学ぶ必要性をあまり感じていないと思われる。そのため、一方的に講義を聞くことでは知識として残りにくいと考え、自分で考えてみること、グループで話し合うこと、互いの意見を聞くことなどを実施した後に、まとめとして教員からの説明を聞くようにした。

また、話し合いや教員からの話を聞くだけでは、各自の理解の程度や具体的なイメージはかなり異なっていると思われることから、連携・交流についての2限分の授業を次のように

展開することとした。

- ・ 1 限目は上記の進め方を実施しながら連携の全体的把握を行う。
- ・ 2 限目は交流の映像を見ることで実際の共通理解を図ることと、より身近な視点で考えてみるよう交流計画案を作成する。

## 2.2 授業構成について

授業構成を考えるにあたって、小学校との連携・接続における保育者の役割については、学生にあまり意識されていないことが予想されたため、180分の授業の展開を4つの段階に分け、少しずつステップアップを図っていくこととした。

一つ目は、「入り口として」である。保育所や幼稚園等と小学校との連携・接続を考えていくにあたって、学生にとっては何を切り口とすれば入りやすいか、興味や関心をもって取り組めるかを考えた内容である。

二つ目は「それを深めるために」である。興味や関心をもった内容から、その目的や意義、3要領等に示された根拠や取組みのポイントなど、専門的理解をより深めていくことをねらった内容である。

三つ目は「実際を見る」である。授業を通して各自がもつイメージは、自分の経験を土台としているため、どうしても経験差によるばらつきができてくる。このため、映像によって実際の交流を見ることで、イメージの共有を図るものである。

四つ目は「実際を考える」である。連携・接続に対する、ある程度理解とイメージの共有が図られたところで、グループで交流計画を立てることで実践力の育成を図るものである。

この四つの段階に応じて、どのような内容をどういった順序で進めていくかを考え授業展開した。

## 2.3 各段階の具体的な内容と学生の反応

### 2.3.1 「入り口として」

ほとんどの学生にとっては、小学校時代は8年以上前である。幼稚園等との交流は低学年の頃が主であるが、在校生として校内で交流の様子を見聞きすることもあったであろうと考え、授業の最初に「保育所や幼稚園等と小学校との連携として思いつくものを考えてみる」という課題に取り組みさせた。

しかし、授業の冒頭での質問であったためか、どんなことを考えたらよいか戸惑う様子が見られた。そこで、子どもたちの交流として「運動会を合同です」「入学前の2月ごろに学校探検に来る」といったイメージしやすいものを例示し、それを糸口として考えてみるようにした。結果としては、グループで話し合うなかで少しずつ経験したことを思い出していったようで、様々な交流行事や給食・授業等の小学校体験が挙げられた。また、教職員の連携としては、「子どもの様子や互いの施設での実態を知る」「話し合いを通して情報を共有

する」などが挙げられた。こうした学生の考えを整理しながら、さらに多様な具体的内容を加えることで、実際にどのような交流・連携が行われているかを把握できるようにした。

### 2.3.2 「それを深めるために」

交流・連携の実際を知った次段階として、「連携は何のために行うものか」という課題について、「子ども」と「教職員」の二つの観点に分けて取り組ませた。

小学校との連携・接続は、学生が受講している様々な授業科目においても触れられており、2年次の最終段階であるこの時期、学生もその必要性や目的については理解が出来ていることから、子どもについては「小学校への期待感をもつ」「生活を知る」「見通しをもつ」といった円滑な移行のためという意見が多く見られた。また、教職員については「子ども一人一人に合った関わりができるようにするため」「互いの不安解消」など、発達や学びの連続性を見据えた意見が見られた。

その後、平成22年11月11日に出された「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議」の報告をもとに、接続の課題として挙げられている内容やその解決のために必要とされていること、さらには交流・連携から接続へと目的が進化してきていることも伝えた。

この次の段階として、前段落で挙げた「接続の課題」について、各校種の実態から具体的に考えてもらうために、「就学前施設と小学校との違いとして考えられるものは何か」という課題について取り組ませた。学生から出された意見を見ると、就学前施設に関しては「お昼寝がある」「教科書や宿題がない」「保護者の送迎がある」といった生活の実態だけでなく、「遊びの中で学ぶことが基本」「子どもの興味や関心によって柔軟に時間設定をする」「楽しんで取り組むことを大事にしている」という保育の在り方にも多く言及されていた。一方の小学校に関しては、「長時間椅子に座る」「教科書があり授業時間が決められている」「自分で登下校する」「テストがある」「科目に分かれている」等、具体的な内容が細かく出された。

これらを踏まえ、PPTを用いて生活の仕方（時間、空間、人との関わり）や学びの方法など細かな項目に分けながら違いを示し、子どもにとっての段差の大きさ（負担感）が学生にも感じ取れるように説明していった。それにより、連携・接続の必要性についての実感を強めていったようである。

また、ここでは法的根拠を押さえるために、3要領等のどの部分に、どのような形で小学校との接続が記述されているかを各自で探し、学習シートに書き出す作業を行った。

幼稚園教育要領は「第1章総則第3教育課程の役割と編成」で、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は「第1章総則第2教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」で、いずれも「小学校との接続にあたっての留意事項」として記述されている。

一方、保育所保育指針では「第2章保育の内容4保育の実施に関して留意すべき事項」に「小学校との連携」として記述されている。記述文はどれもほぼ同一だが、保育所保育指針にのみ、小学校への抄本の送付に関する記述が加えられている。これは保育所と、指導要録の作成及び小学校への送付が法律的に位置づいている幼稚園、幼保連携型認定こども園と

の内容の整合性を図るためである。また、ここでは小学校学習指導要領での記述も紹介し、連携・接続は現場の教職員からの必要感だけでなく、法的にも定められたものであることを明示した。

冒頭でもふれたが、3要領等の改訂（定）にあたっては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を10の姿に整理し記載することで、保育者と小学校教諭との間で幼児期の育ちの具体的な姿が共通理解できるようにしている。これも様々な授業科目で繰り返し学んできたことではあるが、再度取り上げることにより、重要性を意識づけるようにした。

### 2.3.3「実際を見る」

保育所や幼稚園等と小学校との連携・接続についての目的や内容の全体がつかめたところで、連携・接続の実際の様子を映像で見る時間を設けた。映像は、T市内のAこども園と隣接する小学校において「秋のおもちゃランド」のテーマで実施された交流の様子を筆者が撮影したものである。

両園・校では、Aこども園に在籍するほとんどの子どもが隣接する小学校に入学するという状況に加え、交通量の少ない道路を挟んで隣接するという立地条件の良さもあり、様々な交流・連携が年間を通して図られている。さらに、平成29年度よりT市教育委員会の「保・こ・幼・小連携教育研究指定」を受けたことから、平成30年度には昨年度の実践をもとに研究を深め、教育・保育内容の充実を目指した取組みが進められた。

今回の授業では、5歳児と1年生がペアになり、11月5日に実施された「おもちゃづくり」と、11月15日に実施された「おもちゃランドで遊ぶ」という内容を、いくつかの場面をピックアップして視聴した。

例えば「おもちゃづくり」では、以下の場面をピックアップした。

- ・どングりに穴をあける場面で、1年生がある程度穴をあけ作業がしやすい状態になったところで5歳児と交代し、5歳児が続きをするのを見守る。
- ・魚の絵を描く場面で、5歳児がどこに魚の目を描くか迷っていると、1年生が他の魚の絵を持って来て見せたり、指で場所を示したりすることで、目の場所を決めて描くことができた。
- ・紙コップに鉛筆の芯を使って穴をあける場面で、5歳児がなかなかできない様子を見た1年生が「ちょっと貸して」と自分がやってみて、やりにくさが分かると、鉛筆を芯の尖ったものに変えたり、少しだけ穴をあけたりしてから、5歳児に自分でするように渡している。

ここでは、1年生が年長者として配慮しながら製作を進めており、また5歳児も個別にサポートしてもらえることで安心して製作に取り組むことができていることを、具体的に見てほしいポイントを伝えながら解説した。

また、「おもちゃランドで遊ぶ」では、子どもたちは魚釣り、やじろべえ、的いれ、ドングリゴマ、マラカス、けん玉の6コーナーで、客と店役を途中交代して遊んでいた。授業では、以下の場面の映像を視聴した。

- ・店役の1年生が客役の子どもたちに遊び方を説明し終わると、それを聞いていた店役の5歳児が道具を渡す。

- ・遊びが終わると、遊びの一覧カードにシールを貼るようしており、そのシールは店役の5歳児が渡しながらか説明し、1年生はその様子を見守る。

これらの場面では、子どもたちが役割分担しながら店役を行うなかで、それぞれに自己発揮しようとしていることを伝えた。また、客役でも以下のような姿が見られることを確認した。

- ・次にどの店に行くかを選ぶ場面では、5歳児が行きたい店を選べるよう、1年生が声掛けをしたり、決めるまでそばで待つ。

- ・技術を要する遊びもあり、5歳児がなかなかうまくできない時には、1年生が「こうやってみたら」と声を掛けたり応援をしている。

これらの姿は、年長者としての役割を果たそうとする1年生と、そこにあこがれをもちながら従っていく5歳児の姿であることを伝えた。

こうした交流会では、ともすると5歳児が「招待された客」になってしまい、1年生にすべてをしてもらったり、言われるがままに行動する様子が見られる。しかし、Aこども園と小学校との交流では、子どもたちが互いに自己発揮しようとしている様子や、教師や保育者がそのことを意図した支援に努めていること等が、学生は、映像を見ることでより具体的に理解できたのではないかと思われる。

#### 2.3.4 「実際に考える」

交流の意義や内容、実際の様子について学習を重ねた最終段階として、交流計画案を実際に作成する作業に取り組んだ。

前年度、保・こ・幼・小の連携について筆者が授業を行った際には、接続期の指導計画として、アプローチ・スタートカリキュラムの作成に取り組ませた。しかしながら、5歳児後半の幼児に継続して関わったことがない学生がほとんどであったことに加え、小学1年生の実態についても授業で触れられることはほとんどないため、幼児・児童の発達を捉えることに難しさがあった。

この時の、もう少し具体的な交流会等の場面を想定し、その計画案の作成を行う方が取り組み易かったのではないかという反省をもとに、今年度は交流活動の計画案を作成した。

交流活動の時期は1月中旬とし、内容は昔遊び(お正月遊び)とした。これは、学生が1年次の1月中旬に幼稚園の観察実習を行っていることから、ある程度この時期の子どもの姿や遊びのイメージがもてるのではないかと考えたからである。また、実際の交流として昔遊びを実施してる園も多いため、今後に役立つとも考えた。

計画案の作成にあたっては、交流会までの様子として、12月から1月にかけての5歳児と1年生の遊びや経験内容、さらには、これまでの交流内容等についても状況設定して周知した(資料3参照)。

計画案の作成シートには、「5歳児・1年生それぞれのねらい」と「遊びの展開」、「それ

に対する保育者・教師の関わり」及び「環境構成や教材等の準備物」の枠を用意し、これらの点を考えることとした（資料2参照）。また、3要領等の改訂（定）を踏まえ、この活動が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、どの姿につながるものであるかを考えてみることも課題として加えた。

なお、計画案の作成はグループワークとし、意見交換しながら作成していくことで、それぞれの経験や考えを合わせ、交流の実際に近づけていくことができると考えた。

しかし、作成に取り掛かってしばらくは、どのように遊びの内容を設定するか、場所をどのように配置するかを決められず、戸惑う様子が見られた。そこで、交流の具体的な様子を伝えたり、いくつかの遊びを設定する場合、保育者が一人で援助などを担当できるのはどの程度かを考えてみることで、遊びの内容・設定数や配置場所を決めていくよう助言したりしたところ、実際の様子についてのイメージがもてるようになったのか、少しずつ話し合いが活性化していった。なお、話し合いの中では様々な考えが出るものの、そこから意見を調整しまとめていくことが難しいグループも見られたため、作成した交流計画案の提出は授業時間に限定せず、内容がまとまった時点での提出も可能とした。

提出された計画案は、遊びの種類や場所などを考慮し、遊びの経過に伴う保育者の配慮等もよく考えられたものから、実施が難しい遊びの数、場所の配置となっているものまで様々であった。助言として伝えたことが十分理解できていないことも考えられたため、計画案作成にあたっての状況説明などは、より具体的に行うことが必要と思われた。

以上2.3.1～2.3.4のように、様々な要素を経験できるようにと構成した授業内容であるが、実施結果から、2限分の授業で実施するには分量がやや多く、十分な理解を促すためには内容の精選を考える必要があると思われた。

## 2.4 学生の感想から

授業の最後に、今回の授業を終えて、自分がどのように小学校との連携に取り組んでいきたいと考えるかを記入させたところ、次のような意見がみられた。

- ・幼児が小学校入学に対し期待や興味・関心もてるよう連携をしていきたい。
- ・小学校の生活にスムーズに接続できるように、小学校での生活を伝えたり実際に体験できる機会をつくっていきたい。
- ・教師間の連携をしっかりと行い、子どもの様子を具体的に伝えたり、積極的に交流会を実施したりしていくことで人間関係を形成していくことも大切にしたい。
- ・就学前施設と小学校では異なる点がいくつもあるので、その違いを一つ一つ見つめていけるよう交流に取り組みたい。
- ・就学する子どもたちは小学校への期待と同じくらい不安もあると思うし、保護者にも不安はある。そうした不安を軽減できるよう、交流や行事への参加をしたり園での取り組みを行ったりしながら、小学校への見通しをもてるようにしていきたい。

いずれも、授業を通して連携の必要性や、取り組みの意義を感じたからこそその言葉と思われ

る。小学校との連携を実際に担当するのは何年か後になると思われるが、この意識を持ち続けてほしいと願うところである。

### 3 研究授業参観後の研究討議・参観記録から

研究討議における各教員からの意見と、後日提出された参観記録から、次のような課題が明らかになった。各意見及びそれに対する考察は次のとおりである。なお、各意見は3.1「授業の構成について」3.2「学生の理解を深めるために」3.3「資料等について」に分類し、まとめた。

#### 3.1 授業の構成について

##### [意見①]

自分で考え、学習シートに記入したのちグループで話し合う活動が3回あったが、1回目の話し合いでは戸惑う学生がみられていた一方、2、3回目の話し合いは比較的スムーズに進められていた。グループ活動に慣れているかどうかということもあるが、各回の内容にもよるのではないかと思われる。3回の内容の順番を入れ替え、「小学校との違い」「連携の目的」「連携の実際」としてはどうか。

##### [考察]

1回目の話し合いは「連携としてどのようなものが行われているか」、2回目は「連携の目的は何か」、3回目が「幼稚園、保育所等と小学校の違い」が課題である。2.3.1及び2.3.2で述べたような意図をもって授業構成をしたが、学生にとっては「幼稚園・保育所等と小学校の違い」が一番わかりやすく、そこを最初に話し合うようにすることで、連携の目的や目的達成のための取組みも考えやすかったのではないかと思われる。

##### [意見②]

「連携の実際」「連携の目的」については子どもと教師・保育者に分けて考えてみることにしていたが、「幼稚園・保育所等と小学校との違い」については校種に分けて考えてみるようになっていた。子どもと教師・保育者にとっての連携を考えてみるという視点が途中で変わっているものの、学生はそれぞれの課題について個別のものとして考えているところもあった。それぞれの内容を考慮し、視点を考えるのでどうか。

##### [考察]

保育現場においては、連携の意味や内容を整理していく時に、子どもと保育者に分けて考えることがある。連携は、子どもたちの交流や接続に向けての取組みなどが中心となりがちだが、それをより充実させるために、事前事後に保育者・教師間で行う話し合いや、相互理解を深めるための研修なども重要な意味をもつ。そこを意識することも目的として子どもと教師・保育者を分けて考える構成とした。

しかし、「幼稚園・保育所等と小学校との違い」では、施設ごとの特徴を考えていく方が学生にとってわかりやすいと考えたことから、視点が前二つと違ったものとなった。わかりやすさを考えるのであれば、「小学校との違い」については他の二つと切り離し、学習面、

生活面といった分類の仕方をしてよかったのではないか。

### 3.2 学生の理解を深めるために

#### [意見①]

説明で使用したプレゼンテーション画面のいくつかは配布資料として渡されていたが、自分で考えた後グループで話し合った部分に対する説明資料は投影のみで、学生はメモ欄に記入するようになっていた。この時に説明を聞きながら書き写す作業をしていたため、学生によっては、十分理解しきれず混乱していたのではないかと思われる。

投影した画面を追加シートとして配布し説明することで、より理解しやすくなったのではないか。

#### [考察]

学生にとっては、板書や掲示物はメモを取るべきものとして書き写すことが習慣化している。それだけに、書く量と書き写す時間についてはある程度考慮する必要がある。この点については、学生の状況をよく見ながら、書く量の適量化と時間の確保を考えていくことが自身の課題であることを再認識した。また、書いている途中で口頭の説明が入ると、これも書き加えようとしてうまく整理されないままになる可能性がある。研究討議で提案されたように、掲示した画面を追加シートとして配布することも取り入れていきたい。

#### [意見②]

現場での実践経験がある教員が伝えたいと思う内容は、学生にとっては情報過多になりがちである。幼稚園・保育所と小学校の連携について学ぶ必要性を感じていない学生に対し、どこまで伝えるかは精選していく必要があるのではないか。また、なぜ連携が重要か、それについて学んでおかななくてはという危機感をもたせるような取組みを授業の最初に取り入れることができればよいのではないか。

#### [考察]

いずれの保育現場においても、5歳児を担当する保育者の、小学校への接続をより良いものにしたいという気持ちは強い。そのために、どのような方法が望ましいかは、各自実践を通して模索しているところである。しかしながら、同一園の中でも担任する年齢によっては連携等に対する意識の温度差があるのは否めない事実である。それを考えると、実習等においても、子どもの育ちの一部分としか関わる経験のない学生に、子どもの育ちの見通しをもち、就学を意識していくことはかなり難しい課題と言える。

こうした学生の意識を踏まえつつも、「必ず小学校へ送り出す」という保育施設の役割から、どの立場にあっても自分たちの課題と考えていけるような働きかけを考えたい。

#### [意見③]

「自分で考えたうえでグループワークを行う」「グループワークの内容は付箋に書き込み、各グループの意見をまとめて書画カメラで投影する」など、アクティブラーニングを意識した取組みがされていた。しかし、グループワーク後の教員からの説明があることで、学生によっては「解答を言ってくれる」というような受け止めになっている様子が見られた。一人

一人の参加意識をどのように高めていくかは、今回の授業に限らず課題である。

[考察]

「できる限り自分なりに考えてみること」と「自分以外の意見を聞くことで視野を広げること」を願っての授業のもち方であるが、学生によって授業への参加意識に温度差があることは課題と感じている。この改善は難しいところであるが、他の教員とも連携しながら、よりよい方法を探っていきたい。

### 3.3 資料等について

[意見]

実際の理解を促す一端として、ビデオ視聴を取り入れているが、数本のビデオ（1本は数十秒程度）を連続して視聴したことで長く感じられたように思う。また、解説も同時進行で行っていたが、ビデオの内容や視聴の目的、着目点を明確にしたうえで、説明は別に行った方がよいのではないか。

もしくは、視聴後に学生間で考え、話し合う時間を設けることもできるのではないか。

[考察]

講義として伝えている内容の具体的なイメージをもちやすくするためにビデオを活用している。しかし、交流会の具体がわからない学生にとっては、映像のどこをどのように見ればいいのか分かりにくかったと思われる。意見で言われているように、内容や視聴の目的・着目点をあらかじめ伝え、さらに視聴中にそこを伝える、場合によっては映像を止め、注目させながら解説するなどの方法をとることで、場面理解も進んだのではないか。

また、説明の時間を充実させるためには、内容の精選も必要となってくる。例えば、「1. 全体がイメージできる映像」「2. 1年生の年長者としての関わり方」「3. 教材の工夫」「4. 5歳児の自己発揮」といったようにテーマを明確にし、それに応じた映像を一つに絞り込んで伝えるといった方法も検討していきたい。

視聴後に話し合うことも、共通の場面をもとに話し合いが深まるという利点を活用できればと思う。

## 4 おわりに

保育者の最大の務めは、子どもたちの健やかな心身の成長を支えていくことである。就学期の円滑な接続のため、小学校との連携・接続に取り組んでいくことも、乳幼児期の育ちを広く捉えれば、その一端と考えることができる。たしかに、新規採用時に5歳児主担任となる可能性が低いいため、学生にとっては学ぶことへの必要感をもちにくい内容ではあるが、3年間から6年間の保育施設での発達の見通しをもつためにも、連携・接続について理解を深めておくことは重要である。

今回の研究授業を通しての考察からは、身近な視点から考えてみることや、具体的な説明や映像を取り入れること等、学生が理解しやすい授業内容を構成する必要性とその具体的方法がより明確になった。

また、授業構成については、少しずつステップアップを図っていくよう構成を考え、身近なところから理解を広げていったことで、連携や接続の必要性や取組みの意義を感じた学生も多いと思われる。しかし、参観教員からの意見にもあったように、「入り口として」の部分での連携・接続の実際を考えたことと、「それを深めるために」で就学前と小学校の違いについて考えたことは、ステップアップを考えた順序としては再考の余地がある。就学前施設や小学校について、また交流の実際について、学生がどの程度理解しているかについての現状把握に努め、授業に反映させていく必要性を感じたところである。

今後に向けては、これらを生かし、さらにわかりやすく、学生が意欲的に取り組めるような授業の実施に努めていきたい。

- 参考文献 厚生労働省（2017）『保育所保育指針』  
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』  
文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』  
文部科学省（2017）『小学校学習指導要領』  
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2015）『スタートカリキュラム スタートブック』  
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議（2010）「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」

#### 参考資料

- 資料1 平成31年1月10日に実施した研究授業の指導案  
研究授業としては1コマのみであるが、授業内容は2コマで構成していることから、2コマ分の指導案を資料とする。
- 資料2 「2.3.4 実際を考える」で配布した学習シート  
就学前施設と小学校で行う交流会の計画案として、ねらい、活動の展開、環境構成をグループで話し合っけて記入する学習シートである。
- 資料3 「2.3.4 実際を考える」で配布した学習シート作成のための資料  
交流会当日までに、就学前・小学校間で実施してきた交流内容、及び交流会に向けて、それぞれに取り組んだ内容を掲示および配布したものである。

資料1

保育・教職実践演習〔保育所・こども園・幼稚園と小学校の連携〕指導案

日 時 平成31年1月10日(木) 2・3校時 10:40~12:10 13:00~14:30

場 所 2101 講義室

対 象 保育学科2年生

本時のねらい 就学前施設と小学校の連携の目的や、交流の具体的取組みとその重点を知る

時間	活動内容	指導内容及び留意点
10:40	○授業内容の確認をする ・授業の目的を知る ・2時間の構成を知る	・1月がどういう時期であるか(現場にとって・自分にとって)を再確認しながら、積極的に取り組むよう促すとともに、見通しをもって取り組めるように働きかける。
10:45	○保・こ・幼・小の連携としてどのようなものがあるか考えてみる ・ワークシート1に記入する ・記入後、グループで話し合う ・意見の発表(付箋) 子どもについて 教師について ・意見のまとめをする	・自分なりに考えたことだけでは狭い視野になりがちだが、グループで話し合うなかで多方面から考えていけるようにする。 ・グループでの意見をまとめて掲示することで、意見の全体を共有できるようにしていく。 ・PPTで大きく項目分けし、学生の意見を織り込みながら交流の傾向が把握できるようにする。 ・こども目線で考えること、交流の実際からその目的を考えてみること等、ポイントを伝えることで考えの糸口とする。
11:10	○何のために連携を行うかを考える ・ワークシート2に記入する。 ・記入後、グループで話し合う ・意見の発表 ・意見のまとめをする	・就学期の接続の意味を理解するための根拠として重要であることを意識できるよう伝える。 ・子ども目線で考えてみることで、連携の実際をイメージしてみることで、具体的な違いに気付けるようにする。 ・自分なりに考えたことだけでは狭い視野になりがちだが、グループで話し合うなかで多方面から考えていけるようにする。
11:30	○保こ幼と小学校の違いについて考える ・ワークシート3に記入する ・記入後、グループで話し合う ・意見の発表 ・意見のまとめをする	・生活空間・時間の違いや学び方の違い等、視点を明確にすることで漠然ととらえがちな違いを明確にする。

11:55	○PPTに沿っての説明を聞く ・意識の違い ・取組みの現状	・具体的な違いを理解したうえでの、それぞれの役割や立場の違いといった視点での捉えにも気づかせる。
12:05	○連携の根拠について調べる ・教育要領、保育指針等の関係文書を探してワークシートに書く (進行によっては3校時へ)	・連携の必要性や重要性を感じたところで、その裏付けとなる根拠について教育要領・保育指針等どのように記載されているかを確認する。

配布物:学習シート、PPTレジュメ、資料

時間	活動内容	指導内容及び留意点
13:00	○連携の根拠について調べたことを発表する	・3要領等の記載と、学習指導要領記載について照らし合わせをする。 ・10の姿の意味を再度押さえておく。
13:15	○円滑な接続を目指しての連携のためのポイントについての説明	・必要性(何のために)と同様、どのように進めるかも重要であることを認識させながらポイントを伝えていく。
13:30	○スタートカリキュラムについて ・スタートカリキュラムについて知る ・カリキュラムの実際を見る	・国のパンフレットをもとに「学びの芽生えから自覚的な学びへ」取り組んでいく全体的な流れを理解させる。 ・実際のカリキュラムを提示し、どのようなことがカリキュラムとして必要かを理解させる。
13:40	○交流の具体として (Aこども園と隣接小学校の取組み紹介) ・全体的な計画と指導案をみる ・ビデオ視聴	・交流の全体的な計画からその一つとしての秋の交流につなげていく。 ・ビデオの具体的な準備、子どものかかわりなどに注目して視聴できるよう説明をしていく。
14:00	○交流計画を作成する ・お正月遊びをテーマとした交流案を作成する。	・何を大事にすべきかを考えるための演習であることを伝える。 ・園・学校の状況を具体的に設定し、それをもとにより実際的に考えられるようにする。
14:25	○学習シートの回収	

配布物:スタートカリキュラム等関係資料、交流会ワークシート

資料 2

小学校との交流活動の一コマを捉えた具体的な計画の作成（学習シート）

- ①これまでの経験等はパワーポイントで表示します。
- ②それを参考に、遊びの内容を考え、実施案として作成してください。

作成者名(グループ)		
交流活動実施案		
日時	平成31年1月17日(木)10:00～11:30	
場所	保育所・幼稚園・こども園 5歳児保育室(ホール等の使用も可)	
対象	5歳児( )組 30名 1年生( )組 35名	
テーマ	昔遊び(お正月遊び)を一緒にしよう	
遊びのねらい	5歳児	
	1年生	
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	※遊びを通して育つことが予想される姿を書き出す	
時間	5歳児・1年生の活動の流れ	保育者・教師のかかわり・配慮点など

※ この表をもとに、1年生の先生と話し合います。1年生のねらいは、本来1年担任が考えますが、今回はアプローチ・スタートカリキュラムの一環として考えてみてください。

環境構成・教材準備物図

時間	環境構成	教材準備物
	<p>注：研究ノート資料としての紙面の構成上、実際の学習シートよりこの欄の記入スペースの行数を減らし、下部に資料3であるパワーポイントでの表示を加えて1枚に構成しています。 (実際は半ページ程の欄)</p>	

※ 子どもの配置や場の設定などの環境構成と、教材等の準備物の間の線を引いていません。  
自分でスペースを決めて線を引くか、そのまま混在させながら記入するなど、使い方はグループで考えてください。

実施案を作成するときに分からなかったことや悩んだことなど、課題と感じたことを書いてください

資料 3

学習シート作成のために配布した状況設定の資料(パワーポイントでも表示)

① 交流計画を作成してみよう

- ・基本とするのは  
アプローチ・スタートカリキュラム
- ・時期 1月 17日
- ・場所 保育所・こども園・幼稚園
- ・テーマ 昔遊び(お正月遊び)を一緒にしよう

② 交流計画を作成してみよう

- ・5歳児
- 12月から、コマ回しの練習をしている。
- 1月に入って、かるたやすごろく、羽根つきやお手玉、竹馬なども遊びの中で経験している。
- 老人会との交流会も実施。

③ 交流計画を作成してみよう

- ・1年生
- 生活科の授業で、老人会と昔遊び交流をしている。また、今回の交流に向けてすごろく作りをした。
- 校庭での遊びとして、竹馬や羽根つき、コマ回しが盛んである。

④ 交流計画を作成してみよう

これまでの交流から

- ・5歳児と1年生のペアを決めて、何度か一緒に活動している。
- ・12月に、5歳児から1年生へ招待状を送っている。

※ 今回は保こ幼を会場とするため、保育者が計画案を立て、小学校教諭と打ち合わせを行う。